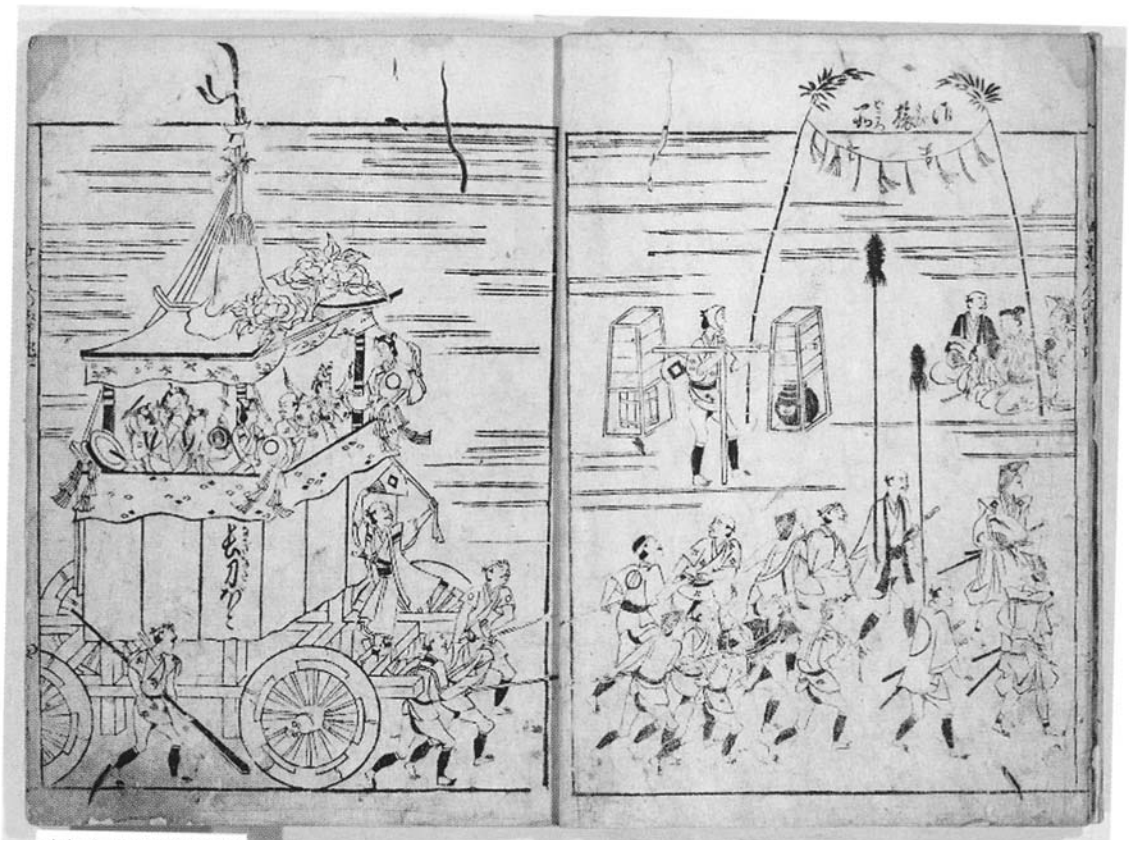
総合資料館だより

2003.7.1　No.136



－貴重書データベースから－

祇園御本地（ぎおんのごほんじ）

御伽草子（おとぎぞうし）の中の本地物（ほんじもの）。本地物は、中世物語の特色ある作品群で、江戸初期の語り物に継承されたと言われています。神の本体（本地）は仏であり、衆生を救うために神の姿を借りて現れたとする、本地垂迹説（すいじゃくせつ）に影響を受けて成立した物語です。

この祇園御本地は、「祇園本地序」の部分で、祇園社（明治元年に八坂神社と改称）の主祭神、牛頭（ごず）天王の由来を物語っていますが、１冊のほとんどを山鉾行列の絵が占めており、祇園の祭礼の方に重点を置いた構成になっています。

江戸時代初期刊　１冊（闕あり）23.7×17.5㎝

貴重書データベースには全頁収録されています。

※貴重書データベースには、当館所蔵の貴重書約600点・4,400冊のうち、161点・781冊（本年６月現在）のデジタル画像が蓄積されており、総合資料館、府立図書館内の専用端末のほか、府立図書館のホームページ(http://www.library.pref.kyoto.jp)でもご覧いただけます。

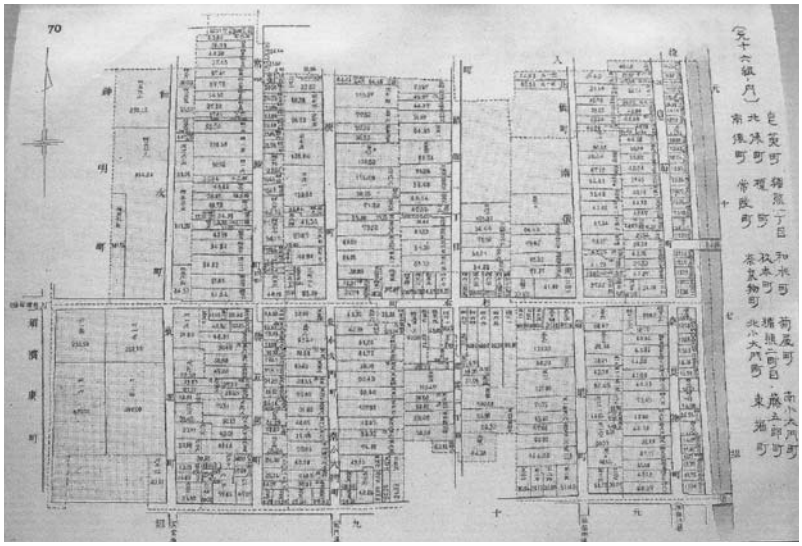
目次

祇園御本地 ……1
歴史資料課の窓から「社寺領上地と社寺境内外区別の図画」 …4
ホームページのご案内、展覧会のお知らせ ……7
文献課の窓から「京都府内の住宅地図」……2
最近の収集資料から ……6
友の会事務局から、古文書相談のご案内　他 ……8

所蔵資料紹介　京都府内の住宅地図

当館で、最近特に閲覧の希望が多い資料のひとつとして、京都府内の住宅地図をあげることができます。今回は、この住宅地図についてご紹介します。

住宅地図とは、後でご紹介する地籍図とは異なり、実際に入居している人や会社の名前が地図上に記載されているものです。一様に住宅地図と称していますが、正式なタイトルを挙げてみると、「京都市全住宅案内図帳」、「京都市全商工住宅案内図帳」、「京都市新家屋精密地図」など、住宅地図という名称を全く使用していなかった時代があることもわかります。縮尺は、出版社によって異なりますが、当館所蔵の資料においては１：1500～１：1800のものがほとんどです。地域や年代によっては、１：6000で作成されているページを含むものも見受けられます。また、出版社としては、住宅協会、吉田地図（京都吉田地図株式会社）、ゼンリンの３社が主です。



▲地籍図

利用が多い理由には、当館が古い住宅地図を所蔵していることも考えられるでしょう。地域によって所蔵開始年にばらつきがありますが、京都市内の各区については昭和30年代刊行のものから所蔵しています。この時期の住宅地図を所蔵している図書館は、非常に少ないと思われます。京都府や国立国会図書館の総合目録をインターネット上で検索しましたが、京都市の昭和30年代の住宅地図を所蔵しているのは当館のみでした。他の図書館が所蔵する他地域の住宅地図でも、昭和30年発行のものが一番古いようです。住宅地図そのものの発行が始められたのもこの頃からではないでしょうか。当館の所蔵している住宅地図を見ますと、発行当初は、手書きの原稿を印刷した筆耕版で作成されており、その後の活字版や、現在の電算写植と比べると、時代の移り変わりが感じられます。

時々、昭和30年以前の住宅地図に当たるような資料はないかとのご質問もいただきますが、残念ながらありません。ただし、「京都市及び接続町村地籍図」（京都市地籍図編纂所発行）という資料が参考になる場合もあります。凡例に「地籍図ナルモノハ恰モ人ニ戸籍アルガ如ク土地ハ所謂台帳ト地図トニ依リ其籍明カナリ」とあるように、現在の住宅地図とは違って、その土地の所有者を明らかにするための資料です。大正元年の発行ですので、現在よりは狭い範囲になりますが、その当時の京都市域における土地所有者を調べる目的には利用できます。

ところで、住宅地図の利用が多いのは当館だけではないようです。他の地域の図書館でも、ホームページ上で「質問や利用の多い資料」として挙げられていたり、所蔵地域や所蔵年の表を公開していたりしています。最近、特に利用が増えていますが、その原因としては、平成14年５月29日に土壌汚染対策法が公布されたことや、不動産鑑定評価基準に「土壌汚染の有無及びその状態」という項目が追加されたことなどがあるようです。

当館にも、京都府内に限らず全国から利用依頼が寄せられますが、特定の土地における建物の変遷の調査だけでなく、商店街の中での商店の入れ替わりや、路地の形の移り変わりの調査、先祖等人物の所在の確認、史蹟の正確な立地など、様々に利用されています。

ただ、数十年を経る間に行政区が変化したり、前回刊行時とは異なる組み合わせで、複数の町を１冊に掲載したりするので、年代の順を追って調査する場合には、注意が必要です。例えば、昭和51年の京都市の行政区再編成によって誕生した山科区と西京区については、それ以降の住宅地図しかありません。昭和50年以前のことを調べる場合は、山科区は東山区の東部を、西京区は右京区の中部・南部をご利用いただくことになります。なお、京都府内住宅地図の所蔵一覧をカウンター内に備えていますのでお気軽にお尋ね下さい。

次表に、特に利用の多い京都市行政区別の所蔵年を掲載しました。また、京都府内の各市町村については、所蔵開始年のみ掲載していますので、ご覧下さい。

京都市行政区別の住宅地図所蔵一覧

平成15年６月現在

区		所蔵年
北区		S31 32 35 H4 6 8 9 11 12 14
	西部	S39 41 44 47 49 53 56 60 62
	東部	S39 41 44 45 46 48 52 55 59 62 63
左京区	北部	S32 34 39 41 43 45 48 52 54 59 62 H1
	中部	S41 45 48 53 56 59 62
	南部	S31 35 38 41 45 49 53 58 60 62
		H4 6 7 9 11 12 14
上京区		S31 32 34 39 41 48 52 54 59 62 63 H4 6 7 8 9 11 12 14
中京区		S31 32 34 38 41 43 48 52 56 59 61 63 H4 6 7 9 11 12 14
下京区		S31 35 39 41 47 54 59 62 H1 2 4 6 7 9 11 12 14
南区		S31 34 H4 6 8 9 11 12 14
	西部	S38 41 47 50 53 57 60 62 H2
	東部	S38 41 47 51 57 60 62 H1
東山区	西部	S31 34 39 42 48 52 55 60 63
	東部	S32 35 40 42 44 46 49
		H4 6 8 9 11 12 14
山科区		S51 53 57 59 61 H4 6 7 9 11 12 13
	北部	S63 H2
	南部	S63 H2
右京区	北部	S32 34 38 41 44 47 50 53 57 60 62 H1
	中部	S41 44 46 49
	南部	S32 35 38 39 41 42 44 46 49 52 56 59 62 H1
		H4 6 8 9 11 13 14
西京区		S51 53 58 61 63 H1 4 6 8 9 11 12 14
伏見区	北部	S32 35 39 42 47 50 52 58 60 62 H1 2
	南部	S32 35 39 42 44 46 49 52 56 58 60 62
		H4 6 8 9 11 13 14

※S：昭和　H：平成

京都府内各市町村の住宅地図所蔵開始年

向日市	昭和40年～	山城町	昭和47年～	舞鶴市	昭和53年～
長岡京市	昭和40年～	南山城村	昭和62年～	大江町	昭和62年～
大山崎町	昭和40年～	亀岡市	昭和48年～	宮津市	昭和53年～
宇治市	昭和40年～	京北町	昭和〔60〕年～	加悦町	平成４年～
城陽市	昭和35年～	美山町	昭和〔60〕年～	岩滝町	昭和61年～
久御山町	昭和35年～	園部町	昭和61年～	伊根町	昭和61年～
八幡市	昭和35年～	八木町	昭和61年～	野田川町	昭和61年～
京田辺市	昭和35年～	丹波町	昭和61年～	峰山町	昭和61年～
井手町	昭和43年～	日吉町	昭和61年～	大宮町	昭和61年～
宇治田原町	昭和57年～	瑞穂町	昭和61年～	網野町	昭和61年～
木津町	昭和47年～	和知町	昭和61年～	丹後町	昭和61年～
加茂町	昭和61年～	福知山市	昭和41年～	弥栄町	昭和61年～
笠置町	昭和61年～	三和町	昭和62年～	久美浜町	昭和61年～
和束町	昭和62年～	夜久野町	昭和62年～	※ただし、〔　〕は推定年	
精華町	昭和47年～	綾部市	昭和48年～		

☆刊行頻度は地域によって異なりますので、お問い合わせ下さい。

社寺領上地と社寺境内外区別の図面

－明治初期の社寺行政に関連して－

当館所蔵の行政文書の中に「社寺境内外区別取調」という名称の資料があります。明治初年に実施された社寺領の上地（知行又は所領を上納すること。上知とも書く。）と地租改正に伴う社寺境内外区別事業に関連して作成されたものです。

この資料は、社寺境内地の線引き結果の実測図、境内外区別の取り調べ結果をまとめた社寺境内外区別取調帳、用途別に彩色された見取り図風の実測図面により構成されています。

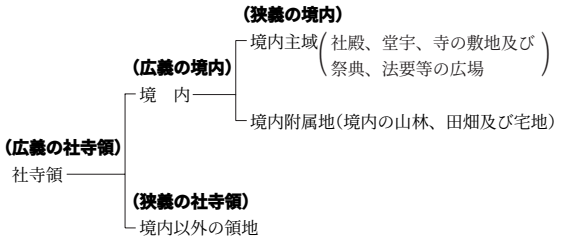
行政文書の中で、このようにまとまった形で図面が残されているのは珍しく、この資料がどのような経過で作成され、現在に残されたのか、その社会的背景も交えながら、紹介したいと思います。

１　明治初期の社寺領の状況

慶応３(1867)年の大政奉還、明治２(1869)年の版籍奉還により、幕府や各藩が所有していた旧体制の領有地はすべて政府の所管になりました。しかし、社寺領についてはまだ旧体制のままとなっており、近代国家体制の樹立を目指す政府にとっては、何らかの処置を講じる必要がありました。

この頃の、社寺の所有地は、おおよそ次の図のような状況にありました。

【社寺領区分】



※大蔵省管財局編「社寺境内地処分誌」から

２　社寺領上地令

明治４(1871)年１月５日、政府は「社寺領上地令」を公布します。これは、幕府や各藩が所有していた領地と同様に、社寺領についても政府に帰属させようとするものでした。

これがいわゆる第一次上地令で、上地の対象となったのは「朱印地（江戸時代、社寺が将軍から朱印状を受けて所有した土地）、除地（年貢・諸役を免除された土地）等」で、社寺領区分（左図）中の「境内以外の領地（狭義の社寺領）」でした。

この施策を進めるために、政府は府藩県に対して社寺の境内外区別の取り調べを命じますが、現境内地の標準や境内外の区別が一定しなかったこと等により、その取り調べは、なかなか進みませんでした。

一方、この頃、政府の最重要施策である「地租改正事業」も進められており、社寺境内外区別の取り調べは、この事業と併行して行われることとなりました。内務省地租改正事務局は、明治８年６月29日、「社寺境内外区画取調規則」を制定し、社寺境内外区別事業の進捗を図りました。これがいわゆる第二次上地令で、社寺の社殿堂宇寺の敷地と祭典法要等の広場以外の土地が上地の対象となり、社寺の境内地は、更に狭められて社寺領区分（左図）の「境内主域(狭義の境内)」のみとなりました。

このように、上地により社寺が受けた経済的な打撃は大きなものがありましたが、それを緩和する施策も実施され、明治７年９月、「社寺逓減禄制」が制定されて、社寺に対し、年を追って料が減らされる逓減により10年間、現米（後に金禄）が支給されました。

３　社寺境内外区別の取り調べ

第一次上地令を受けて、京都府は府内の各社寺から提出された社寺地等の取調書や絵図面をもとに、実地検分によって上地令に基づく境内外の線引きを実施しました。明治５年の京都府庁文書（永年保存文書）の中に、「社寺境内外区別原図」、「社寺境内外区別下図」という簿冊があり、この時作成されたものであると考えられます。

明治８年の第二次上地令をうけて、京都府が取りまとめたものが「社寺境内外区別取調」で、「社寺境内外区別図」、「社寺境内外区別取調帳」、「社寺境内外区別図面」からなり、全体で66冊あります。明治18(1885)年頃までに作成されたもので、それぞれが、上京区、下京区及び各郡別に編綴されています。

(1) 社寺境内外区別図

境内地線引き結果の実測図です。

明治７年11月に「社寺境内外取調顓派出ニ付心得方」の内務省達、明治８年４月に「社寺境内外取調ニ付実測図面等取調方」の教部省達が府県あてに出されますが、これに基づいて作成されたものと考えられます。

▲社寺境内外区別図（知恩院）

(2) 社寺境内外区別取調帳

「社寺境内外区画取調規則」に基づき実施された社寺境内外区別取調の結果を同規則第６条の雛形により取りまとめ、内務省に提出したものの京都府の控えです。

各社寺ごとに、社寺名・所在地・朱黒印地・除地・旧境内・現境内等が記載されています。

▲社寺境内外区別取調帳（知恩院）

(3) 社寺境内外区別図面

「社寺境内外区画取調規則」第８条には絵図面を添えることが規定されており、「社寺境内外区別取調帳」の添付図面として作成されたものです。

「社寺境内外区別図」を原図として作成されていますが、土地の用途別に彩色された見取図風の実測図面となっています。

▲社寺境内外区別図面（知恩院）

４　社寺境内地処分の変遷

上地令による「境内地」の決定は、社寺に大きな経済的打撃をもたらし、社寺からは境内外区別の決定に寛大な処置を願う陳情が出され、政府は、「社寺領上地跡処分規則」等を定めて、一定の条件のもとに上地した土地をその社寺に払い戻すなど緩和策を実施しました。

また、明治７年11月の「地所名称区別改定」に基づき、官有地、民有地の区分の査定が行われ、明治８年７月の「地所処分仮規則」により、社寺の境内地は、民有地の確証が無い限りこれを官有地に編入し、そのまま無償で社寺の使用を認めるという処置が取られました。

上地された土地は、神官・僧侶・士族等の帰農を奨励するため、譲渡されて一般民有地となったり、再び境内地あるいは社寺保管林に編入され、さらに社寺国有境内地処分の法律（昭和14年法律第78号・同22年法律第53号）の規定によりその社寺に譲渡されて社寺の所有地となったり、そのまま国有地となったりしました。京都では、上地された土地が学校や公園等の公共施設の敷地として利用された事例が多く残されています。

昭和14(1939)年、「寺院等ニ無償ニテ貸付シアル国有財産ノ処分ニ関スル法律」が、また昭和22(1947)年、「寺院等ニ無償ニテ貸シ付ケシアル国有財産ノ処分ニ関スル法律」の一部を改正する法律が公布され、社寺境内地の処分が進められました。

昭和22年に「社寺境内地処分審査会」が設置され、各社寺から提出された譲与申請が審議されました。その審査会の答申を受けて大蔵大臣が申請地の処分を決定し、社寺に譲与又は半額で売り払われました。昭和27(1952)年12月、その審査は終了し、明治初年の上地令で収公した社寺境内地の処分は、国の重要施策として約100年近くの年月を経て終了しました。

以上のような経過の中で作成された社寺境内外区別の図面ですが、現在、歴史資料として学術調査研究に利用され、例えば都市景観の変遷を知ることのできる資料として、また公園等の設置経過や社寺の変遷を知る資料として、海外の雑誌にも掲載されるなど広く活用されています。

この資料は、昨年、重要文化財に指定されました。また、京都府が第定した京の文化振興プランに基づきデジタル化を図るなど、利用者の皆様に気軽に利活用していただけるよう整備を図る予定です。

（歴史資料課行政文書担当　渡辺佳子）

最近の収集資料から（平成15年 3月～5月）

◆図書資料

〈京都〉

江戸時代の図書流通　長友千代治著　仏教大学通信教育部　2002　9,310,5p

塔銘（全・和訓）　扶桑沸心宗一祖建仁開山千光祖師編　貝葉書院　当山開創八百年記念大本山建仁寺蔵版　2002　２冊　寄贈

京のしあわせめぐり55　川合章子著　紫翠会出版　2003　151p　寄贈

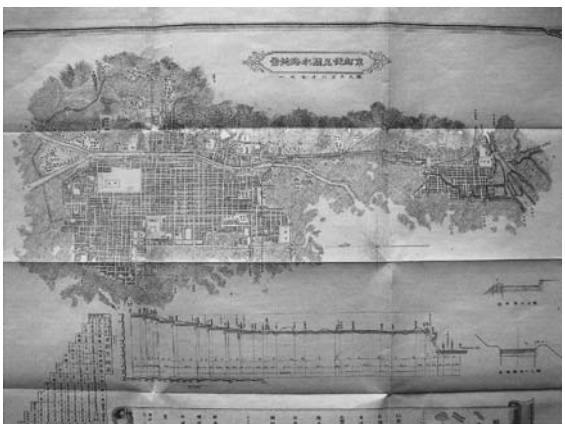
東本願寺をめぐる争訴事例集（第１～３巻）　入江正信編　商事法務　2003　３冊　寄贈

天下人の時代　16～17世紀の京都　朝尾直弘・田端泰子編　平凡社　2003　297p　寄贈

新選組日誌（上・下）　菊池明等編　新人物往来社　2003　２冊

藤田丹岳と山陽　附・俳人藤田呉竹　春田明著　東京図書出版会　2003　241p　寄贈

京都伏見間水路地図　前田彫刻並印刷　〔明治25〕　縮尺36000分の１　１枚　銅版刷



東寺観智院の歴史と美術　名宝の美　聖教の精華　東寺宝物館編刊　便利堂　2003　151p

和装下絵集　山岡古都編　東方出版　2002　189p

あんなぁよおぅききや　京の言の葉しにせの遺心伝心　玉置半兵衛著　京都新聞出版センター　2003　237p　寄贈

〈人文〉

図書館の原則　図書館における知的自由マニュアル　アメリカ図書館協会知的自由部編　川崎良孝等訳　第６版　改訂版　日本図書館協会　2003　495p

田安徳川家蔵書と高乗勲文庫　二つの典籍コレクション　臨川書店　2003　234p　（古典講演シリーズ９　国文学研究資料館編）

貴重典籍叢書　国立歴史民俗博物館蔵　文学編　第５，15，18巻　国立歴史民俗博物館館蔵史料編集会編　臨川書店　2002　３冊

日本荘園史大辞典　瀬野精一郎編　吉川弘文館　2003　729,255p

大蔵経全解説大事典　鎌田茂雄等編　雄山閣出版　1998　1071p

仏教美術事典　中村元・久野健監修　東京書籍　2002　1035p

仏教荘厳の研究　グプタ式唐草の東伝　図版篇　安藤佳香著　中央公論美術出版　2003　431，30p

美学・美術史研究文献要覧1995～1999　星山晋也監修　日外アソシエーツ編刊　2002　874p

小出楢重画集　小出楢重画　小出楢重画集刊行委員会編　東方出版　2002　349p

〈官庁〉

過疎対策データブック　平成12年度　過疎対策研究会編　丸井工文社　2002　397p

ＩＰＣＣ地球温暖化第三次レポート　気候変化2001　ＩＰＣＣ編　気象庁・環境省・経済産業省監修　中央法規出版　2002　289p

ＯＥＣＤ世界環境白書　2020年の展望　ＯＥＣＤ環境局著　環境省地球環境局監訳　中央経済社　2002　521p

競争力強化のための６つの戦略　グローバルトップを目指した「企業改革」と産業構造への転換　産業競争力戦略会議中間とりまとめ　経済産業省編　経済産業調査会刊　2002　416p

亀岡市消防団の歩み　市制45周年記念　亀岡市消防団編　亀岡市刊　2000　64p　寄贈

宇治市健康づくり推進プラン　こんにちはと笑顔で健やか宇治のまち　宇治市保健福祉部編刊　2002　165p　寄贈

城陽市環境基本計画　城陽市市民経済部環境交通課編刊　2003　105p　寄贈

きょうと労働機関案内　働く人のためのガイドブック　京都府府民労働部労政課編刊　2003　177p

綾部用水　綾部井堰の変せんといま　21世紀農業農村整備企画会議中丹ブロック企画／刊　2003　23p

ホームページのご案内

昨年(平成14年)７月に当館のホームページを開設して約１年が経過しました。この間、月平均で約７千件のアクセスをいただいています。

ホームページでは、当館の概要、利用案内を始め、府民講座や展覧会等の催し物の情報、所蔵資料の紹介等を行っており、この資料館だよりもＰＤＦ形式で掲載しています。また、ネット展覧会と題しまして、平成14年１月に当館で開催した「馬の人形展」の写真もご覧いただけます。

まだ開設したばかりで、掲載している所蔵資料情報は少ない状況ですが、今年度末には「京の古写真」等のデジタル発信を開始するなど、順次、充実を図っていく予定です。是非一度ご覧ください。

▲トップページ

※ホームページアドレス

http://www.pref.kyoto.jp/shiryokan/

（京都府のホームページ「おこしやす京都」からもアクセスできます。）

展覧会開催のお知らせ

当館では、７月から年内にかけて、次のとおり展覧会を開催する予定です。

会場は、いずれも２階展示室で、入場無料です。是非ご観覧ください。

□収蔵品展

普段ご覧いただく機会が少ない館の収蔵品を展示公開します。

会期　７月11日(金)～８月12日(火)
（７月21日(祝)は休館）

内容・高野川河畔蓼倉郷（現在の左京区下鴨付近）の田地文書
・京都の老舗　千吉西村家文書
・昭和28年の南山城災害関連資料
・棟方志功の「板画」による吉井勇の歌集
・染織図案：明治・大正・昭和初期の図案集

□重要文化財指定記念「革嶋家文書展」(仮称)

当館所蔵の「革嶋家文書」が今年５月に重要文化財に指定されました。当館ではこれを記念して、展覧会を開催します。

なお、会期中に記念講演会、列品解説も開催する予定です。

会期　10月１日(水)～10月26日(日)
（10月８日(水)、10月13日(祝)は休館）

□資料館開館40周年記念「館蔵名品展」(仮称)

当館は今年11月に開館40周年を迎えます。これを記念して、当館が所蔵する東寺百合文書(国宝)をはじめとする貴重資料の中から選りすぐった名品を紹介する展覧会を開催します。

会期　11月８日(土)～12月７日(日)
（11月12日(水)、11月24日(祝)は休館）

総合資料館府民講座のお知らせ

◇平成15年９月26日(金)午後２時～

横田八重美氏（今日庵文庫課長）

演題「茶の湯の歴史―今日庵文庫の茶書から―」

受講ご希望の方は、受講希望日、住所、氏名、電話番号を明記し、３日前までに、はがき又はＦＡＸでお申し込みください。

＊満席で受講をお断りする場合のみ連絡します。

〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町1-4
京都府立総合資料館　庶務課
TEL 075-723-4831　FAX 075-791-9466

友の会事務局から

◎　平成15年度の友の会会員は、６月１日現在で348人となりました。

性別	継続	新規	計
男性	170人(48.9%)	18人(5.2%)	188人(54.0%)
女性	142人(40.8%)	18人(5.2%)	160人(46.0%)
計	312人(89.7%)	36人(10.3%)	348人(100 %)

◎　平成15年度の役員会を、５月２日（金）に開催しました。この役員会で、平成15年度の事業計画が、次のとおり決定されました。

・現地講座（今年度は、開館40周年を記念して、恒例の春期のほか秋期にも開催します）
・見学会（秋期）
・総合資料館府民講座（総合資料館と共催）
・「革嶋家文書展」の列品解説
・古文書解読講座の案内及びテキスト送料の補助
・「総合資料館だより」の頒布（年４回）
・開館40周年記念刊行物の頒布
・京都文化博物館及び池大雅美術館の入館料割引

◎　５月27日（火）、138名の会員の皆さんの参加を得て、橋本関雪記念館（京都市左京区）において春の現地講座を実施しました。

旧画室の存古楼で橋本画伯の曾孫にあたられる橋本眞次さんのお話を聞き、庭園・白沙村荘や展示室を見学しました。緑をわたる風もさわやかに、風雅な時を過ごした後は、隣のレストランにおいて喫茶でくつろいでいただきました。

◎　随時申込みを受付けています。
問合せ先：友の会事務局
（当館庶務課内　TEL 075-723-4831）

古文書相談のご案内

〇古文書の内容や解読についての相談

郵送による事前申込が必要です。申込方法の詳細については、次へお問合せください。
問合せ先：当館歴史資料課　TEL 075-723-4834

コピー料金の改定について

当館では、今年５月から、セルフコピー（白黒）料金を１枚10円に値下げしました。（サービス窓口でのコピー（白黒）は従来どおり１枚20円）

なお、資料の破損を防ぐため、セルフコピーをお断りし、サービス窓口でのコピーをお願いしている資料がありますので、皆様のご理解とご協力をお願いします。

日　誌（平成15年3月～5月）

2.22(土)～3.23(日)	収蔵品展「館蔵資料にみる京と水」開催
3.11(火)	第160回古文書相談開催
3.14(金)	府民講座（第８回）開催
4.15(火)	第161回古文書相談開催
5.12(月)～23(金)	館蔵資料の点検・整理等のため臨時休館
5.29(木)	「革嶋家文書」重要文化財に指定
5.30(金)	古文書調査（京都市内）

利　用　案　内

休館日　祝日(日曜日の場合は、その翌日)、毎月第2水曜日、資料整理期(春季)、年末年始(12月28日～1月4日)

【７月～９月の休館日】
７月９日(水)、７月21日(祝)、８月13日(水)、９月10日(水)、９月15日(祝)、９月23日(祝)

開館時間　午前9時～午後4時30分

交　通　京都市地下鉄烏丸線･北山駅下車
市バス④、北８ 北山駅前下車
京都バス㉘、㊺、㊻　前萩町下車

ホームページ　http://www.pref.kyoto.jp/shiryokan/

発行　京都府立総合資料館　〒606-0823　京都市左京区下鴨半木町１の４
京都府立総合資料館友の会(振替　01030-2-11991)　TEL(075)723-4831　FAX(075)791-9466

〇本誌に関するご意見・ご感想などを当館庶務課までお寄せください。

R100 古紙配合率100%再生紙を使用しています